

様式 C-7-1

平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

所属研究機関名称		東京外国語大学	機関番号	12603
研究代表者	部局	大学院総合国際学研究院		
	職	教授		
	氏名	川口 裕司		

1. 研究種目名 基盤研究(B)(一般) 2. 課題番号 16H03442

3. 研究課題名 フランス語、ポルトガル語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析

4. 研究期間 平成28年度～平成31年度 5. 領域番号・区分 -

## 6. 研究実績の概要

フランス語研究班は東京外国語大学、西南学院大学、名古屋外国語大学において、日本語を母語とする学習者26名について調査を行うことができた。平成29年度は同データを用いて、スピーキング能力の経年変化、テキスト朗読データの評価方法に関する分析を学会等で発表し、前者を論文として公開した。また既存の学習者言語データも含めて、名詞修飾語、接続表現、副詞、/b-v/の対立の経年調査等に関する分析も進行中である。

ポルトガル語研究班はパリ第8大学の協力者と質問項目を作成し、本学と上智大学で計5名について調査を実施した。今後は調査を拡大する予定である。

日本語研究班は、西南学院大学と名古屋外国語大学でフランスを母語とする日本語学習者11名、さらに台湾の開南大学、台湾大学、銘傳大学で中国語を母語とする日本語学習者29名の調査を実施することができた。同学習者言語データについて、特殊拍の挿入と脱落等に関する分析に着手した。

トルコ語研究班は、平成29年度はボアジチ大学の研究協力者と調査項目を検討し最終版を作成した。平成30年度から本学とボアジチ大学での調査を行う。

平成29年度は、海外協力者としてElisabetta Carpitelli教授（グルノーブル第3大学）、Bernard Combette教授（ローヌ大学）を招聘し、地理的言語変異、談話標識の通時的変化に関する講演を開催し、本研究計画を遂行するための助言を得るとともに、協働調査の可能性についても話し合った。さらにHava Bat-Zeev Shyldkrot教授（テル・アヴィヴ大学）とJacques Durand教授（トゥルーズ大学）と共に音声学・音韻論および統語論に関する国際ワークショップを企画し研究交流を行い、科研へのコメントをもらった。

## 7. キーワード

学習者言語コーパス 第2言語習得

## 8. 現在までの進捗状況

区分 (2) おおむね順調に進展している。

## 理由

これまで2年間にわたりトルコ語話しことばデータの文字と音声データの同期作業を外注により行ってきたが、当初の見積もり以上に経費と時間がかかることが判明した。このままでは本来の研究計画に影響が出る可能性があるため、今後の2年間はより小規模な形で同作業を継続することにした。

フランス語を母語とするポルトガル語学習者については、インフォーマントを見つけることが困難であることが判明したが、さらに可能性を探ることにした。

1 版

## 9. 今後の研究の推進方策

ここでは平成30年度から変更があった部分のみ記載する。  
 ・ポルトガル語研究班の分担者であった鳥越が平成30年度よりモザンビークに海外赴任することになり、本科研の研究を継続することができなくなった。しかし同班統括者の黒澤が適切な研究協力者を後任として選んだことで、今後の研究遂行に支障をきたすようなことはないと思われる。  
 ・3年目に入り、データの蓄積のあるフランス語と日本語については学習者言語データをWeb公開するための準備を進める。そのために新たに梅野に分担者となってもらった。

## 10. 研究発表（平成29年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著論文 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Kawaguchi Yuji	4. 巻 43
2. 論文標題 Pomme de terre "potato" in French -A Geolinguistic Analysis of Lexical Variation-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Flambeau	6. 最初と最後の頁 38,52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） info:doi/10.15026/91130	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Kawaguchi Yuji	4. 巻 17
2. 論文標題 Reflexion geolinguistique sur le mot sel	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Geolinguistique	6. 最初と最後の頁 7,22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Detey Sylvain, Racine Isabelle	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 Towards a perceptually-assessed corpus of non-native French: the InterPhonology of Contemporary French (IPFC) project illustrated with a longitudinal study of Japanese learners' /b-v/ production	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Learner Corpus Research	6. 最初と最後の頁 223,249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Racine Isabelle, Detey Sylvain	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 Pour un renouvellement de l'enseignement de la liaison en FLE au regard des corpus : defis d'apprentissage et usages contemporains	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of French Language Studies	6. 最初と最後の頁 87,99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 ハルカ コシタカ, 伊藤玲子, 関敦彦, 川口裕司
2. 発表標題 中級フランス語学習者によるテキスト朗読 経年的観察
3. 学会等名 外国語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawaguchi Yuji
2. 発表標題 Lexical change and Dialect Distribution -Potatoes in French
3. 学会等名 Methods in Dialectology XVI
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawaguchi Yuji
2. 発表標題 Standardization and Distance -Case of ALCB-
3. 学会等名 Methods in Dialectology XVI
4. 発表年 2017年

1 版

1. 発表者名 川口裕司
2. 発表標題 語彙の多様性と歴史の変遷 EclairとPomme de terre
3. 学会等名 フランス語学会談話会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 布村猛・海野多枝
2. 発表標題 中国語を母語とする学習者の日本語音声の特徴 上級と初級学習者の比較を通じて
3. 学会等名 外国語教育学会
4. 発表年 2017年

## 〔図書〕 計3件

1. 著者名 青木三郎・秋廣尚恵・渡邊淳也・ダニエル＝ルポー・守田貴弘・須藤佳子・ブヨ＝バティスト・稲葉梨恵・奥田智樹・田代雅幸・石野好一・藤村逸子・ドルヌ＝フランス	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 386
3. 書名 フランス語学の最前線 5 【特集】日仏対照言語学	

1. 著者名 Cosnier-Lafage Frederique, Kerkalli Mohamad, Kawaguchi Yuji, Maitre Marie-Julie, et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Department of French, Tamkang University	5. 総ページ数 230
3. 書名 Actes du Colloque International 2016 Echanges culturels d'aujourd'hui: Langue et litterature	

1. 著者名 Tyne Henry, Sugiyama Kaori, Carette Emmanuelle, Gaatone David et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Presses universitaires de Perpignan	5. 総ページ数 122
3. 書名 Le francais en contextes : Approches didactiques, linguistiques et acquisitionnelles	

## 1 1 . 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

## 1 2 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Research Workshop: Linguistique francaise et corpus	開催年 2017年
国際研究集会 Research Workshop: Apprenants japonais de francais et recherches sur corpus	開催年 2017年

## 1 3 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
Turkey	Bogazici University	-	-	-
France	Universite Paris 8	-	-	-
Taiwan	Kainan University	Ming Chuang University	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

1 版

1 4 . 備考

2017年度研究活動

<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/index.php?id=337>

Parce que, fiche grammaticale du projet FRACOV

<http://www.univ-paris3.fr/index-des-fiches-227311.kjsp?RH=1373703153287>

川口裕司 日本語研究概説, 開南大学大学院集中講義, 桃園市(台湾), 2018年3月15日-16日

川口裕司 講演 TUFUSにおける研究プロジェクト, 開南大学講演, 桃園市(台湾), 2018年3月15日

提出確認用